

# 生ごみ自家処理 こうしてなめています！

小平・環境の会  
島京子



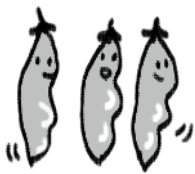
現在の畑の様子 只今、絹さや・小松菜収穫最盛期



## 放射能汚染に苦慮する生ごみ堆肥化

NPO法人小平・環境の会(東京都小平市)では、理事のほとんどが家庭の生ごみを自家処理している。その方法は、EMバケツ利用、ダンポールコンポスト、庭に置くコンポストとさまざまだが、「ごみ」として出すことはない。市の「食物資源循環モデル事業」(2010年開始。現在約700世帯が参加)に出している人もいる。

日の出町のごみ最終処分場問題をきっかけに設立した当会では、活動の中心を「ごみ減量」と「資源循環」に置いてきた。その活動の一つとして、小学校の生ごみ乾燥処理物(小平市は全小学校に給食残渣を乾燥処理する機械を設置している)と自分たちで市内で大量に集めた落ち葉を寝かせて作った腐葉土、米ぬかなどを攪拌・発酵させて寝かせた堆肥を作り、それを畑に入れて野菜を作る「畑部会」を設け、2003年から活動している。当初8年間は120坪の畑を使用させてもらっていたが、これを返還後、市民菜園を利用。昨年からは、新たに80坪の農地と市民菜園の両方で「畑部会」の活動を続けている。



この活動は、生ごみも落ち葉も市内で資源循環させることが目的だった。しかし、2011年の東北大地震による福島原発事故で放出された放射能で落ち葉が汚染され、自分たちで腐葉土を作ることが不可能になったため、2011年から今日にいたるまで、堆肥作りを中止せざるを得なくなってしまった。

もちろん、畑の土も汚染された。事故後、畑の土や作物、落ち葉の放射能測定を測定所に依頼してきたが、2011年の畑の土の測定結果は、168Bq/kgで、この時は、作物からも30~55Bq/kgの汚染が見つかった。その後、畑を耕すことで、汚染された上の土が、下の汚染されていない土と混ざり、だいたい50~60Bq/kgにまで汚染値が下がり、土の値がこのくらいになった後は、作物からは放射能が検出されなくなった。

しかし落ち葉は、一昨年158.2Bq/kg、昨年89Bq/kgで、汚染が減少しつつあるとはいえるものの、畑の土より汚染されているものを畑に入れる気にはなれない状態だ。でも、生ごみ堆肥で作った野菜は本当においしい。それを知っているだけに、今年は、腐葉土だけは汚染されていない地域のものを購入し、生ごみ堆肥作りを再開させる予定である。

また、小平市ごみ減量推進実行委員会に参加し、EMぼかしとダンポールコンポストによる生ごみ堆肥化講習会も毎年開催。市民に生ごみ資源化を薦めている。